



義久 精臣

福島県立医科大学

2014年に改定されたICSD-3において、OCSTによる診断に関して記載されたが、うっ血性心不全、心房細動などの合併症のある患者においてはその対象から除外されている。

2015年には左室駆出率45%以下の中枢性無呼吸有意の心不全を対象に実施されたASVを用いたSERVE-HF試験が公表された。

心不全におけるSDB診断の意義とPAP療法の選択に関して現状における対応を踏まえ紹介させていただきます。